

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

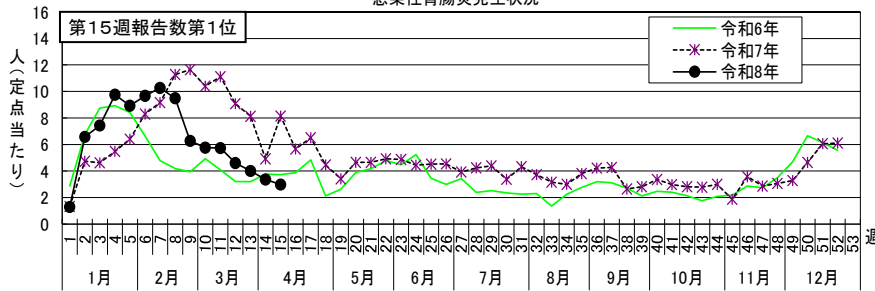
令和8年4月6日（月）～令和8年4月12日（日）〔令和8年第15週〕の感染症発生状況

第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.97人と前週(3.35人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は1.50人と前週(2.00人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.49人と前週(1.84人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

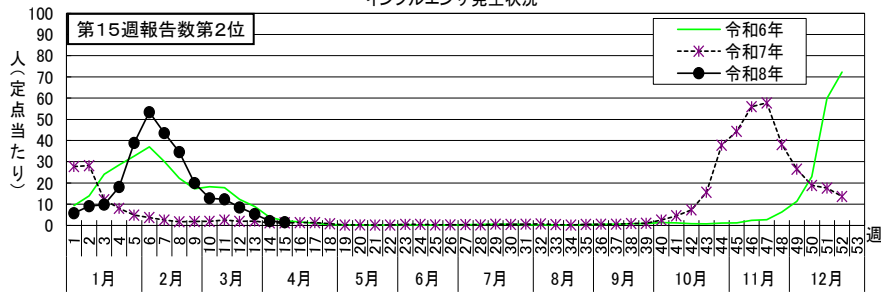


STOP

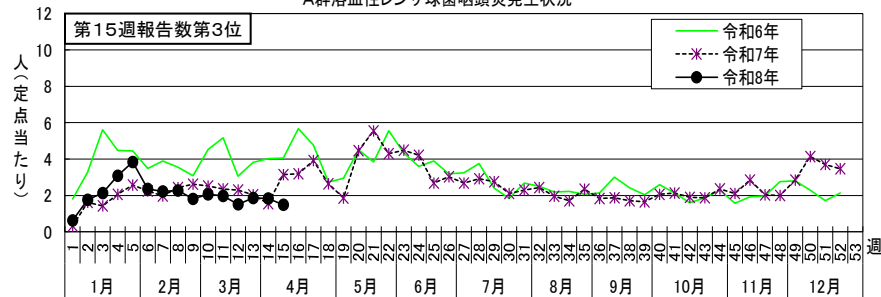
感染性胃腸炎発生状況



インフルエンザ発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況

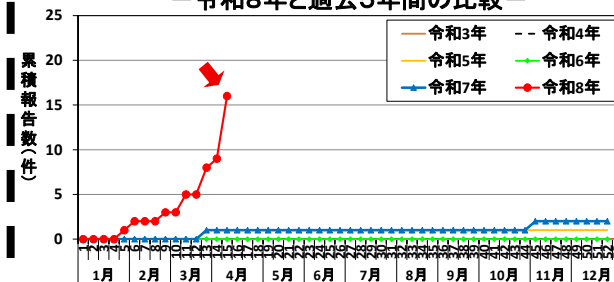


麻しんの感染拡大を防ぎましょう！

現在、全国的に麻しんの報告が相次いでいます。川崎市内においても報告数が急増しており、第15週（4月6日～12日）も7件の報告がありました。麻しんに感染すると、免疫のない人はほぼ100%発症し、発熱や咳等の症状が3日程度続いた後、高熱と発しんが出現しますが、ワクチンを接種している場合は症状が軽く、典型的な症状がみられないこともあります。

麻しんは、発熱前日から解熱後3日間を経過するまで感染力があるとされています。感染拡大を防ぐために、疑わしい症状がみられる場合は事前に医療機関に電話等で相談の上、公共交通機関等の利用を避けて受診しましょう。

川崎市における麻しんの累積報告数の推移
 -令和8年と過去5年間の比較-



麻しんとは？

【感染経路】

飛沫感染、接触感染、空気感染

【潜伏期間】

7～18日間（最長21日間程度）

【主な症状】

発熱、発しん、咳、鼻汁、結膜充血等

【予防方法】

麻しん含有ワクチン（MRワクチン等）の接種
 <小児の定期予防接種の対象者>

第1期：生後12月から生後24月に至るまでの間にある者

第2期：小学校入学前の年度1年間（4月1日～翌年3月31日）



典型的な麻しんの経過

